

日本の中期目標を考える セッション

20090508

イーズ 日刊 温暖化新聞事務局

枝廣淳子

1

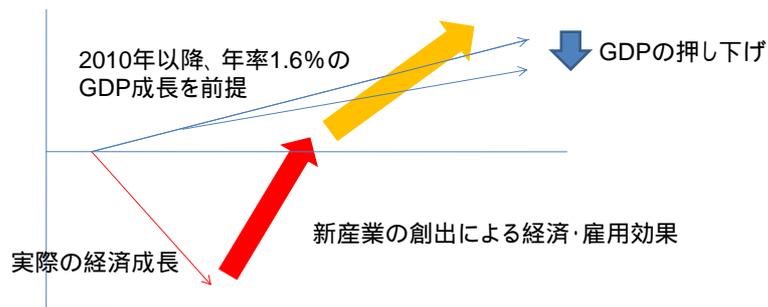
日本の中期目標の目的

- **被害が大きくなるうちに温暖化を止める**
長期目標を実現できるよう、2020年までに日本が進めるべきことを明確化する
- **あるべき日本の社会・経済へのシフトを進める**
「資源エネルギー制約の時代」にも生き生きと幸せに
繁栄していく日本へ向けて
- **国際体制づくりに寄与する**
米中など多排出国・途上国がともに取り組む
(他の先進国との**公平性の観点**など)

2

(補足資料) モデルの限界

- 新しい産業の創出による効果は表現できない
- BAUが完全な姿を想定している(完全雇用etc)
何をしてもGDPなどにマイナス影響が出る

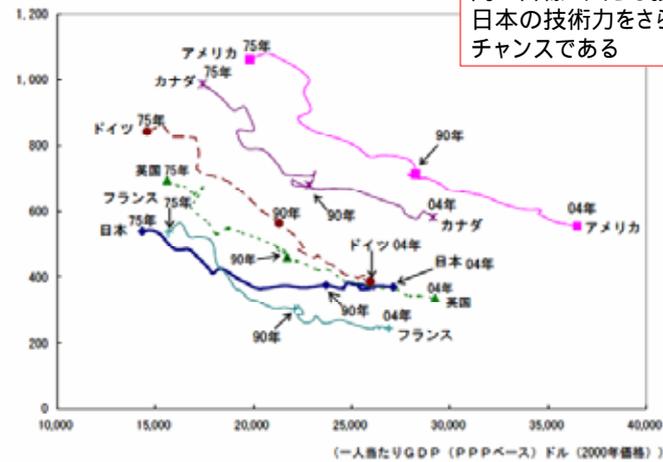


(補足資料) 早期対策の有効性

- 寿命の長さ 早ければ早いほど削減可能性
が大きくなる
 - 住宅:30年
 - 工場:20～30年
 - 自動車:10～20年
- 技術進歩とコスト削減効果
2020年後も効果を生み続ける

(補足資料) 経済発展と排出効率： 先進国

(二酸化炭素換算トン/GDP (PPPベース) 100万ドル (2000年価格))



高い目標と大きな投資で
日本の技術力をさらに進める
チャンスである

(備考) 1. X軸の一人あたりGDP (PPPベース) は世界銀行「World Development Indicators」、
Y軸のGDP (PPPベース) 当たりCO₂は日本エネルギー経済研究所「エネルギー・
経済統計要覧 (2007年版)」より作成。
2. 日本エネルギー経済研究所のCO₂のデータは炭素換算の数値であるため、Cの原子量と
CO₂の分子量の比である12/44で除して二酸化炭素換算したもの。
3. GDP (PPPベース) とは2000年基準のGDPを購買力平価換算したもの。

(内閣府「世界経済の潮流 2007年秋」図2-1-8)

5

情報、考え方、行動、広がりへ!
日刊 温暖化新聞

(補足資料) 公平性の基準

「限界削減費用」：日本とカナダの一部のみ

たとえば.....

- オーストラリア：1990年からの一人あたり排出量の削減
- ニュージーランド：GDPあたりの対策費用
- カナダ：同上または限界削減費用または収入と消費の減少
- EU：4つの組み合わせ
 - 一人あたりGDP
 - GDPあたり排出量
 - 人口トレンド
 - 1990～2005年の排出の推移

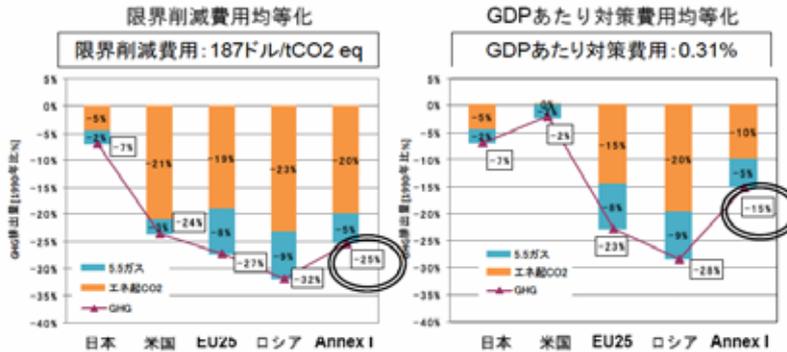
6

2. (3) 今後の国際交渉への備え

日本が同じ数値目標でも、衡平性指標の取り方で、各国の結果は変わる

③: 各国が日本と同等の削減: 「長期需給見通し」最大導入(フロー対策強化)

日本の「最大導入ケース(GHGは7%減, エネルギー起源CO2は5%減)相当」と同等レベルの限界削減費用(左図)またはGDPあたり対策費用(右図)を, Annex I諸国に設定した場合



パーセントの数値については、下記のルールに従う。
5.5ガスは、「(2020年5.5ガス-1990年5.5ガス)÷1990年GHG総排出量」。
エネルギーCO₂は、「(2020年エネルギーCO₂-1990年エネルギーCO₂)÷1990年GHG総排出量」。
GHGは、「(2020年GHG-1990年GHG)÷1990年GHG総排出量」。

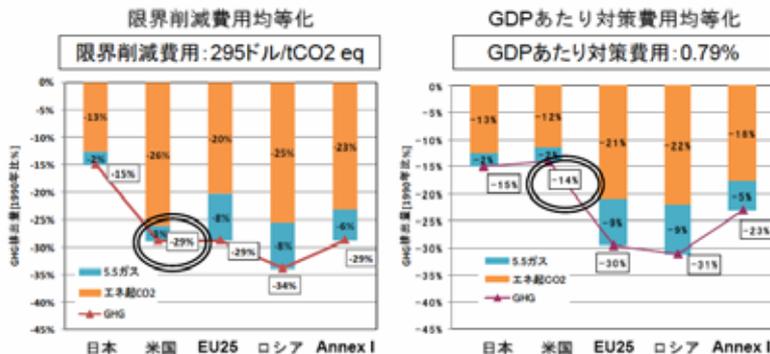
(中期目標検討委員会西岡委員資料より)7

2. (3) 今後の国際交渉への備え

日本が同じ数値目標でも、衡平性指標の取り方で、各国の結果は変わる

⑤: 各国が日本と同等の削減: ストック・フロー対策強化

日本の「ストック・フロー対策強化ケース(GHGは15%減, エネルギー起源CO₂は13%減)相当」と同等レベルの限界削減費用(左図)またはGDPあたり対策費用(右図)を, Annex I諸国に設定した場合



パーセントの数値については、下記のルールに従う。
5.5ガスは、「(2020年5.5ガス-1990年5.5ガス)÷1990年GHG総排出量」。(2020年5.5ガス-2005年5.5ガス)÷2005年GHG総排出量。
エネルギーCO₂は、「(2020年エネルギーCO₂-1990年エネルギーCO₂)÷1990年GHG総排出量」。(2020年エネルギーCO₂-2005年エネルギーCO₂)÷2005年GHG総排出量。
GHGは、「(2020年GHG-1990年GHG)÷1990年GHG総排出量」。(2020年GHG-2005年GHG)÷2005年GHG総排出量。

(中期目標検討委員会西岡委員資料より)8